

登録コード:MH211100 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	組織学実習 Practical Human Histology		
担当教員	寺田 信生		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻 1 年 後期 木曜・4 時限 木曜・5 時限		
単位数、講義室	2 単位	保健学科形態系実習室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	⇔	授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	生命を尊び、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。	⇔	人体構造からなる人間の営みの理解から、ヒトの尊厳について考えながら患者に接することができるようにする。
	MH25カリ・保健・検査, MH23カリ・保健・検査		
	≪基礎的・専門的な知識と技能≫保健・医療専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。 ≪科学的探求力≫変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。	⇔	人体構造を分類しながら説明できるようにし、これらが連動しての人体を理解して病態への理解につなげていくことができる。 人体構造の実体に基づいて、新事実も理解しながら科学的に対応できる心構えを持って医療が行えるようにする。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	前期の「組織学」講義において、細胞・組織・器官からなる人体の基本的構造を理解しましたが、本授業では御献体から頂いた貴重な人体臓器の組織切片標本を用いて、光学顕微鏡による観察を行う実習を行います。 本授業は、1 年時に学ぶ「生理学」「解剖学」「生化学」などと合わせて人体のしくみを理解し、さらに病態を学んでいくための重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の医学における人体解剖知識の基礎から病気の診断と治療の臨床にわたって、医師としての実務経験を活かして講義と実習を行います。 本授業は、人体の理解を通して男女の個人としての人權の尊厳についても学ぶ、男女共同参画に関する内容を含んでいます。		
授業計画	第 1 回 (10 月 1 日) 総論；上皮組織、筋組織など 第 2 回 (10 月 8 日) 呼吸器系（気管、肺）・消化器系 1（舌） 第 3 回 (10 月 15 日) 消化器系 2（耳下腺、顎下腺、食道） 第 4 回 (10 月 22 日) 消化器系 3（胃、小腸（空腸、回腸）、大腸） 第 5 回 (10 月 29 日) 消化器系 4（肝臓、膵臓） 第 6 回 (11 月 5 日) 泌尿器系（腎臓、膀胱） 第 7 回 (11 月 12 日) 男性生殖器系（精巣、精嚢、前立腺）；軟骨内骨化 第 8 回 (11 月 19 日) 小テスト（第1～7回分確認）；女性生殖器系 1（卵巣、卵管、子宮） 第 9 回 (12 月 3 日) 女性生殖器系 2（乳腺、胎盤）、外皮系（皮膚） 第10回 (12 月 10 日) 内分泌系（下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎） 第11回 (12 月 17 日) 中枢神経系（大脳、小脳、脊髄） 第12回 (12 月 24 日) 循環器系（大動脈、中動脈、細動脈、毛細血管）；骨髄 第13回 (1 月 7 日) 免疫系（リンパ節、脾臓、胸腺、口蓋扁桃） 第14回 (1 月 14 日) 視覚・平衡聴覚器（眼球、内耳）、末梢神経系（坐骨神経） 第15回 (1 月 21 日) まとめ（第1～14回のプレパラートを総復習します）、授業アンケートの実施 第16回 (1 月 28 日) 期末試験		
授業の進め方	毎回、計画にある臓器のプレパラートを顕微鏡テレビ画像によってデモンストレーションを行った後、各自で光学顕微鏡観察をスケッチをしながら組織構造を理解してもらいます。 スケッチは、時々提出してもらい、内容をチェックします。 顕微鏡の観察中に、細胞・組織構造について教員や友達とディスカッションをしながら、授業時間中に理解するように心がけましょう。		
テキスト、教材、参考書	テキスト：①は毎回の実習で使用します。②は前期に使用しましたが、肉眼解剖との連関を理解するために利用しましょう。 ①diFiore人体組織図譜（南江堂）；前期「組織学」の講義と共用 ②カラー人体解剖学（西村書店）；前期「系統解剖学」の講義と共用 スケッチのための色鉛筆を準備すること。		
成績評価の方法	第16回に行う顕微鏡を用いた実習形式の期末試験を主要な評価（約90%）とし、それに加えて実習中の小テスト、質疑応答、スケッチ内容を合わせて（約10%）、として評価します。 試験では、人体の構造を顕微鏡レベルで正確に把握して図示をしながら名称を言うことができ、同時にその部位がもたらす機能を関連付けられるようになったかについて、顕微鏡を見ながら確認をします。試験の結果については、実施後にフィードバックします。		

成績評価の基準	実習試験の成績評価判定基準は下記のとおりです。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 なお、これらの採点の基準は、達成目標に関連した設問に対する選択式解答の正誤だけでなく、記述式解答における用語の適切さ、説明内容の範囲の広さや詳細さ、説明内容の論理的な妥当性などを指標とし、授業で説明した範囲における、最低限の解答内容であれば「水準にある」、やや詳細な解答内容であれば「やや上にある」、十分に詳細な解答内容であれば「かなり上にある」、授業で説明した範囲以上に自身で能動的に学修した詳細な解答内容であれば「卓越している」と判定します。
事前事後学習の内容	[事前学習について] 毎回、授業の終わりに、次回までに調べてくる内容について説明を行います。 [事後学習について] 毎回、授業のはじめに、前回の授業の要点について質問を行いますので、自分の言葉で端的に分かりやすく説明できるように準備して授業に臨んでください。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間＋自己学習時間30時間＝90時間 ※以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	御献体から頂いた貴重な人体標本であるという感謝を忘れずに、プレパラートを大切に扱うようにしてください。 顕微鏡は精密機器であるので、丁寧に扱うようにしてください。 人体組織構造の神秘で美しい世界を、正確に理解して楽しみましょう。 これらの構造がどのようにして出来上がってくるのかの未知のメカニズムについて、将来是非ともヒトの体の構造と機能の研究にも挑戦してもらえたらと思います。 質問への対応：寺田 信生 nobuot@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー： 対応時間については、上記のメールアドレスに確認してください。 保健学科南校舎3階 寺田研究室